

太閤堤跡の「歴史公園」 ここが問題です

総事業費88億円の太閤堤跡の「歴史公園」事業は、市議会で2度予算が否決された後、昨年6月に予算を可決。市長は9月定例会などに①契約議案、②利用料金制を含む施設設置条例、③指定管理者決定議案の3議案を提案しようとしています。市議会が可決するかどうかで事業推進か事業見直しかが決まることになります。

税金の
使い方

88億円歴史公園よりの 市民の暮らしに使うべきです

宇治市は「財政難」を理由にして、敬老会や針・あんま等助成事業など福祉暮らしの予算をバツサリ削り、コミセンや駐輪場等70の公共施設の料金を軒並み値上げしました。さらに来年以降に有料ゴミ袋制、町内会等への古紙回収助成の廃止、集会所の統廃合など、さらなる市民サービスカットを実行しようとしています。

その一方で太閤堤跡の歴史公園事業には総額88億円を投じようとしています。宇治市は歴史公園事

業予算を提案した昨年6月には「財政難」を把握してなかったと言っています。

税金の使い方が誤っています。市民の声で税金の使い方を、市民の暮らし優先に変えましょう。

共産党市会議員団はそのために頑張ります。



PFI
事業手法

設計・建設・運営、入館料まで 民間に約20年間、まるごとお任せ

宇治市が事業者を募集したのに対し、2グループが応募。市はNECソリューションが代表のグループを評点が高かったとして優先交渉権者に選び、仮契約を結ぼうとしています。

事業者の提案内容は、募集要項などで「議会に報告」することになっていたにも関わらず、事業者の「グループ企業のノウハウが公表される事で構成企業に不利益が生じる懸念や今後の企業などとの交渉を円滑に行う上で支障が生じる恐れがある」との意見で、6月議会中は非公表となりました。再三の追及で、7月19日の建設水道常任委員会に事業者提案が報告されましたが、その肝心の部分は黒塗りにされたものとなっています。

PFI事業とは

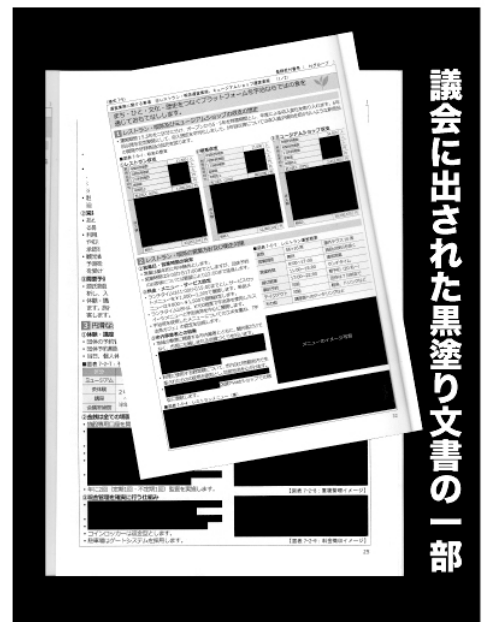
設計・監理、建設、維持管理、運営をすべて民間事業者に委ねるもの。事業者が料金を定める「利用料金制」も可能になります。



収支内容も「ブラックボックス」になる PFI事業手法

PFI事業手法は、歴史公園のミュージアムなどの設計、建設、維持管理・運営を20年間近く、民間事業者にすべて委ねるもので、市や議会がほとんどタッチしないことから、後世に責任を持たない事業手法です。肝心の部分は黒塗り資料で市議会として責任を持った判断ができないことは明白です。

15.5年間のミュージアムの収入が6.4億円(年間4142万円)で赤字なので、15.5年間で20.6億円(年間1.3億円)の維持管理・運営費を事業者を支払わなければなりません。しかし、なぜそうなるのかは「のり弁資料」であるためよく分かりません。



議会に出された黒塗り文書の一部

日本共産党
宇治市会議員団
だより 2018.08

電話 0774-22-3141 (市役所代表)
(内線2817 市議団控室)
FAX 0774-24-7884

市会議員団メールアドレス jcpuji@leto.eonet.ne.jp 市会議員団HP http://jcpuji.main.jp